

青年部 かわら版

山形県建設業協会鶴岡支部

青年部広報誌

第42号

令和6年7月25日発行

今、青年部で出来ることを考える

山形県建設業協会
鶴岡支部青年部部長
土岐 正行

令和6年度を迎え、皆様におかれましては、日々ご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。日頃より当青年部の活動につきまして、関係各位のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年度も引続き部長を務めさせて頂くこととなりました土岐正行です。1年間どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、昨今全国各地で地震や異常気象等に起因した自然災害が頻発化しておりますが、記憶に新しい所で申しますと、去る1月1日（元旦）に石川県を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7の能登半島地震が発生し、甚大な被害と尊い命が失われました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、そのご家族や被災された方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。我々の地域におかれましては、令和4年12月31日の大晦日未明に、鶴岡市西目地内にて、大規模な土砂災害が発生しております。こうした「自然災害の脅威」を年々強く感じると共に、地域の防災・減災への備えに加え、災害発生時における地元建設業が果たす役割は非常に大きく、今後も安全で安心な社会の構築に

向けて、その責務が期待されているところでございます。当青年部員といたしましては「現地元建設産業の担い手」として、また「次世代の地域の担い手」として、より良い未来の構築のため、関係各位のご指導のもと、様々な事業活動に熱意を持って取り組んで参りたいと考えております。

昨年度は令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の「5類感染症」に移行したことを受け、当青年部ではコロナ禍前の水準まで事業活動数を引き上げることを目標に掲げて1年間活動して参りました。移行に伴い、新型コロナウイルス感染症に対し世間の考え方が一変したこと、また感染拡大傾向にある時は青年部ならではの柔軟な発想と積極的な行動力で、予定されておりましたすべての事業を行うことができ、コロナ禍前の水準まで事業活動数を引き上げることができました。今年度も引き続き現状維持に努めるとともに、我々建設業界の近々の課題であります「担い手・人手不足」の解消に向けて、各事業を通じPR活動やイメージアップ活動にも力を入れていきたいと考えております。

現在我々を取り巻く環境といたしましては、今年度より施行された働き方改革の本格的な推進、物価の高騰、人口減少・少子高齢化に伴う危機的な人材不足に加え、賃上げ等、まさに変革時代の中核にあります。我々建設業界においては、その影響が非常に強く感じられ、特に人口減少が進む中で次世代担い手確保は、建設産業の存続・

技術の継承等の観点から最優先すべき急務であると考えております。今後、建設業が成り立っていくためには、「魅力ある建設業」を目指し、建設DXの導入や働き方改革の推進はもとより、地域社会の未来づくりの一翼を担うことで若者に夢や希望を与える産業であり続けるために、個々の企業の一層の取り組みに加え、業界全体や発注者・設計者・さらには地域などの様々な組織との連携による取り組みが求められていると思います。時代の転換期を迎えるにあたり、当青年部の重点事業であります高校生の現場見学会、高校生就業促進事業の意見交換会などにおいて、地域社会における建設業の役割や重要性、仕事のやりがい・魅力を伝えていくことは我々青年部の大きな役割であると考えております。また、新卒者の進路において、地元志向が強まっている傾向があることから、それらを認識し、地元就職へと導くことができるように今年度も担い手確保に向けた事業を鋭意展開し、将来に繋がる地元建設業の発展に貢献していく所存でございます。

最後になりますが、建設業協会の親会をはじめ、ご支援・ご協力を頂いております関係機関の皆様に対し御礼を申し上げますとともに、諸先輩方がこれまで築いてこられた歴史や伝統を引き継ぎ、地域に根差した事業を推進していきけるよう精一杯努めて参りたいと思います。皆様には、引き続きのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度

高校生建設業就業促進
事業報告企画政策委員会
副委員長 齋藤 直樹

近年、建設業を取り巻く就業人口が大幅に減少しており、山形県、特に庄内地域では、全国平均を大きく下回る苦境であります。さらには、人口減少社会の進行に加え、豊富な知識や経験を持つベテラン世代が高齢化・引退していくことから、業界では人材の確保や育成が最大かつ緊急の課題となっております。

つきましては、青年部において若手人材の就業促進と育成を目的として平成27年度より「若者人材就業促進事業」として「魅力ある建設業」を広く次世代にPRするため次の活動を行いました。

① 鶴岡工業高等学校建築科2年生

と職場体験学習及び意見交換会の実施

② YouTube「酒田鶴岡青年部チャンネル」の開設

小学5・6年生、中学2年生、高校1年生にパンフレット配布（鶴岡地区7000部）

高校生との現場見学及び意見交換会は令和5年10月26日に鶴岡工業高等学校2年生31名の生徒と行いました。当日は、鶴工敷地内でトータルステーションを用いた測量実習を行い、青年部員指導のもと測量機器の据付と測定方法について悪戦苦闘しながらも生徒全員が体験することができました。

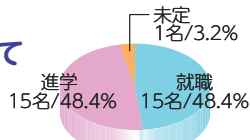
続いて、昨年1年次に見学した鶴岡建設（株）受注のオリエンタルモーター鶴岡中央事業所1棟改築工事を約1年ぶりに見学させていただきました。当時

令和5年度 高校生建設業就業促進事業

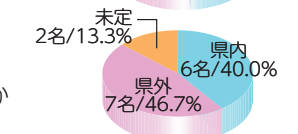
アンケート対象生徒：鶴岡工業高等学校 建築科 2年生 31名

1 あなたの進路について

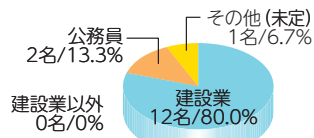
就職ですか進学ですか
(回答数：31名)



就職は県内・県外
どちらを希望しますか
(回答数：15名)

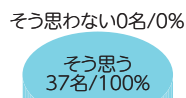


どんな職業を
希望しますか
(回答数：15名)

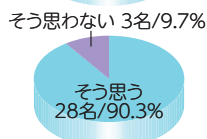


2 建設業についてどんなイメージを持っていますか

建設業は、地域社会の発展に貢献していると思いますか (回答数：31)



建設業は、自分の能力を活かすことのできる魅力的な仕事だと思いますか (回答数：31名)



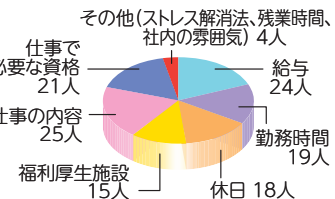
3 高校生意見交換会について

(回答数：31名)

参考にならなかった
0名/0%

参考になった
31名/100%

4 建設会社に関する情報として、どんなことを知りたいと思っていますか



5 高校生意見交換会を終えての感想・要望感想

感想

- ・東京に就職を考えていたが県内就職もいいなと考え直した
- ・建設業界の人材不足が課題であり自分たちが受け継いでいければいいと思った
- ・地元就職と県外就職のメリット・デメリットを知ることができた
- ・学校では使ったことのない測量機器による実習が楽しかった
- ・高校生活のうちからコミュニケーション能力を高めたいと思った
- ・実際に働いている人から話を聞けてとても現実味があり楽しかった
- ・建設業に携わってみんなを笑顔にしたいと思った
- ・自分の性格にあった就職先を見つけていきたいと思った
- ・今回の意見交換会で進路を決めることができた

要望

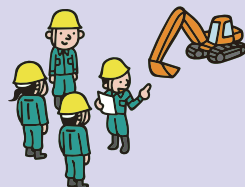
- ・もっとたくさんの会社と意見交換をしたかった

は基礎工事の状況を見学し、今回は概ね建物が完成した竣工前の状況を見学することができました。生徒からは、「1年でこんなに工事が進むことにびっくりした」など感想を得られ、改めて建設工事について間近に感じる機会となったと考えます。

午後からは、「若手就業促進者からのメッセージ」を題材に山形県職員・青年部現役技術者から建設業の仕事内容や仕事の魅力とやりがいについてプレゼンしていただいた。また、各班に分かれた意見交換会では、①建設業の魅力とやりがい ②社会人とは？働くとは？ ③地元就職と都会就職の違い ④いい就職先を選ぶポイント ⑤生徒が知りたいこと自由に質問などのテーマについて討議し、生徒が就職や進学に対して不安を抱えていることや聞きたいことに対し青年部員が体験談を交えながら討議を行った。

建設業は、地域の守り手として必要不可欠な産業です。建設業が持続的にその役割を果たしていくためには、担い手の確保・育成、働き方改革が喫緊の課題であります。毎年実

施している就業促進事業を通じて、魅力ある建設業をさらにPRし地元建設業の活性化に繋がりたいと思います。ご協力いただいた皆様大変ありがとうございました。



山形県建設業協会 酒田鶴岡青年部

YouTubeはじめました!

酒田鶴岡青年部 建設チャンネル

事業の紹介

建設工事見学会や地域の美化運動をおこなっているよ!

Shorts

ちょっと面白いショート動画もチェックしてね!

スマホでQRコードを読み取ってチャンネル登録してね!

酒田鶴岡青年部 建設チャンネル

山形県建設業協会 酒田鶴岡青年部ではこんな活動をしています

地域の美化運動
荘内神社 / 新井田川の草刈清掃

高校生の現場見学会とインターンシップ

建設業のミライ
建設業の新3Kとは?

- 「給料がよい」
建設キャリアアップシステム、職業化でキャリアの発達し、技能・経験に応じて評価される取り組みをしているよ!
- 「休暇が取れる」
区内全域でも、空費時間の削減し、週休2日制、年次有給休暇取得の促進が進んでいるよ!
- 「希望がもてる」
Constructionの関連や、先進的な技術が次々取り入れられ、やりがいやものづくりへの誇りが持てる業界だよ!

一般社団法人 建設業振興会 〒980-0006 山形県酒田市中町1丁目1番1号 2F TEL: 0234-33-0792 FAX: 0234-33-0794
山形県建設業協会 酒田鶴岡青年部 〒981-0011 山形県酒田市中町1丁目1番1号 2F TEL: 0235-22-2284 FAX: 0235-22-2287
協力: 山形県内各市区町村建設部・山形県建設業協会酒田鶴岡青年部・山形県建設業協会鶴岡青年部



令和5年度

河川愛護活動事業報告

地域貢献委員会

委員長 佐藤 直



毎年、当青年部で行っている「山形県ふるさとの川 愛護活動支援事業」を今年度は、6月1日に行うことができました。

新型コロナウイルス感染症ができてからは、大山小学校3年生と一緒に活動を行うことができませんでした。しかし、令和5年度より感染症も5類に移行となり、隔離措置も終了、マスクを着けることを強制されることがなくなり、自由に活動を行うことができるようになりました。

毎年、打合せの段階から大山小学校の3年生の参加を視野にいれながら、すすめている事業で、学校、先生の協力のもと参加してもらえよう調整を

していただきながら行っております。

当日は、午前中、青年部員にて大山川の高館橋より大山橋の左岸側の草刈りを行い、午後からは大山小学校3年生とゴミ拾いを行いました。

参加人数も青年部員が31名と全員の参加となりました。いつも参加者の多い事業活動なのですが、全員参加は、おどろき、大変ありがたいと思いました。

午後からの活動は、小学生53名、先生にも3名出席していただき、大変多い人数で活動することができました。

午前、午後共に天気がよく、午前中は安全に気をつけながら、各自熱中症にならないように水分補給しながら、気持ちのよい汗をかくことができたと思います。午後は子供たちと一緒に川をきれいにすることを楽しく行うことができました。コロナの影響も徐々に

少なくなっていき、みなさんいきいきと活動できたようでした。

普段の仕事からケガなどないよう十分に気を付けているみなさんですので、十分距離をおき、無事ケガもなく終えることができました。ふるさとの川の美化活動に積極的に取り組みたいと思いました。そして同時に青年部、地域の人たちのつながりも大切にしたいと思いました。

当事業にご協力いただきました青年部の皆さん、関係各所の方々ありがとうございました。



令和5年度

鶴岡公園ボランティア活動

事業報告



地域貢献委員会
副委員長 菅 健太

山形県建設業協会鶴岡支部青年部では、令和5年7月25日に『鶴岡公園ボランティア活動』を行いました。この事業は今年で21回目となり青年部としても長く行なっている活動です。当青年部と鶴岡市都市計画課にて打ち合わせを行ない、地元の鶴岡工業高校、鶴岡中央高校の生徒と一緒に鶴岡公園の美化活動を行いました。

コロナも五類に引き下げられ、以前のような活動ができるようになりました。当日は、青年部30名、鶴岡工業高校と鶴岡中央高校の生徒35名、都市計画課の方々との大勢での活動となりました。

菖蒲園付近八橋四阿の塗装、荘内神社前参道の真砂敷き、二の丸広場の除草、こもれび池の洗浄、菖蒲園脇池の泥浚渫の5班に分かれて作業を行いました。

この日は、天気にも恵まれ作業中はたくさん汗をかくので、こまめな休憩と水分補給を行い、熱中症に気をつけ安全に配慮しながらの活動となりました。

生徒の皆さんにとって、日頃通学や観光などで目にして身近な公園が綺麗になり貴重な経験になったことと思います。また、我々も高校生の明るい笑顔が見られて元気をもらった交流となりました。今回の活動を通じて、改めて地域の美化活動の大切さと部員相互や地域の方々とのつながりを大切になりたいと再認識することができました。

最後に、この事業の活動に際しまして、鶴岡市都市計画課の職員の方々、地域の皆様方、関係各位様から、たくさんのご協力を頂き、改めまして感謝を申し上げます。ありがとうございます。今後とも事業につきまして引き続き指導の程よろしくお願いいたします。



令和5年度

自然体験活動事業報告



地域貢献委員会
菅原 元

地域貢献委員会の活動として、令和5年9月6日に『水土里ネットいなばポケットパーク自然体験活動』を実施しました。今年度は、令和元年以降の久しぶりの活動となり、当日は小雨の降る天気でしたが、藤島小学校2年生の児童及び先生方、因幡堰土地改良区の方々と青年部員との合同での活動を行いました。

活動内容としては、主に活動場所まで児童の安全誘導と引率および池の生き物の採取の手伝い等を行いました。久しぶりの活動であったため池の泥が深く、児童は腰までつかりながら一生懸命に魚等を捕まえていました。池の中には多くの種類の生き物が生息しており、その中には希少種（絶滅危惧種）や外来種がいることを学び、自分たちが住んでいる藤島地域は貴重な川があること、様々な生き物が生息していることなどの説明を真剣に聞いていました。この体験を通して、生き物

に関心を持ち自然環境に興味を持つてもらえる良い機会だったと思います。我々建設業も周辺環境や自然環境に対して改めて考えさせられる活動になったと思います。

最後に事故及び怪我もなく無事に終了したことは何より、準備から当日まで協力頂きました因幡堰土地改良区の方々を始め、関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。今後とも指導の程、宜しくお願い致します。



令和5年度

高校生現場見学会

事業報告



企画政策委員会
委員長 佐藤 勝隆

令和5年度も山形県立鶴岡工業高等学校建築科1年生を対象に「高校生現場見学会」を9月13日に開催しました。当日は、山形県立鶴岡工業高等学校建築科1年生の生徒34名と引率教員2名、青年部から24名の総勢60名の参加となりました。

今回の見学場所は、建築の躯体工事を主とした鶴岡建設・マルゴ・笠原建設工業特定建設工事共同企業体の令和4年度山形県立庄内中高一貫校（仮称）高等学校校舎増築その他（建築）工事、（株）石庄建設の（仮称）ポレスター鶴岡錦町新築工事、佐藤工務・佐藤組・山口工務店特定建設工事共同企業体の朝陽第5小学校改築工事及び第5



学区放課後児童クラブ新築工事、土木工事の（株）山田工務店の令和4年度大沢地区農村地域防災減災事業第1工区工事の4現場でした。

この見学会は、高校生に実際の工事現場を見学してもらい建設業の魅力を伝え興味を持ってもらうことで建設産業への就業促進を目的としています。

令和5年度 高校生建設業現場見学会

アンケート対象生徒：鶴岡工業高等学校 建築科 1年生 34名

1 あなたの進路について

就職ですか進学ですか
(回答数：34名)

就職は県内・県外
どちらを
希望しますか
(回答数：21名)

どんな職業を
希望しますか
(回答数：21名)

2 建設業についてどんなイメージを持っていますか

建設業は、地域社会の発展に貢献していると思いますか (回答数：34)

建設業は、自分の能力を活かすことのできる魅力的な仕事だと思いますか (回答数：34名)

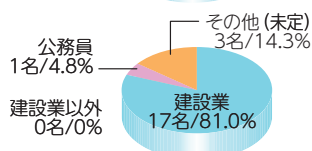
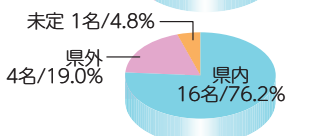
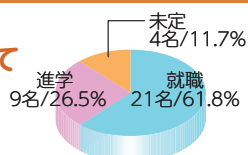
3 高校生意見交換会について

(回答数：34名)

4 建設会社に関する情報として、どんなことを知りたいと思っていますか

5 高校生意見交換会を終えての感想・要望感想

- ・休憩スペースや水洗トイレがあり環境整備がされていると思った
- ・外国人労働者がわかりやすいように外国語表記もあり働きやすかった
- ・職場の雰囲気が明るい、協力して働いていると感じた
- ・クイズ形式の説明がおもしろくてわかりやすかった
- ・近隣住民への配慮や安全管理、地震・水害対策の工夫についても学べた
- ・大きさが違うクレーンでも吊上荷重があまり変わらないことを知った
- ・総工費数十億円と大規模なことや間近で見た大きなクレーンに驚いた
- ・レーザーレベル、ドローンを使って素早く少人数でできるようになっていると思った
- ・地図に残る、自分が建てたと誇れるのが魅力的
- ・学んだことをこれからの学習や進路に役立てたい



そう思わない 0名/0%

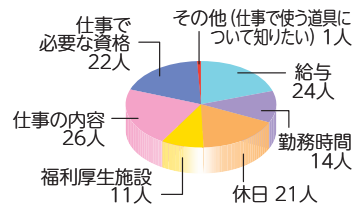
そう思う 34名/100%

そう思わない 2名/5.9%

そう思う 32名/94.1%

参考にならなかった
0名/0%

参考になった
34名/100%



私が企画政策委員として本事業に携わって今回が3回目ですが、高校生に記入してもらったアンケート・感想を拝見すると毎回、高い評価を得ていることがわかります。今回も前回、前々回に続いて現場見学会が進路の参考になった、建設業は地域社会の発展に貢献していると思うと答えている生徒が100%です。建設業は、自分の能力を活かすことができる魅力的な仕事だと思ふ生徒も94%と非常に高くなっています。感想からは工法だけではなく労働環境にも注視している生徒が多いことも伺えました。

また、今回参加の生徒は、コロナウイルスの影響で中学校3年間を行動制限のある中で過ごしてきた学年であるため教室で学んでいることを実地で経験する有意義な時間を提供できたと思います。

本事業開催の為に尽力いただいた山形県立鶴岡工業高等学校建築科1年生の皆様と教職員、見学現場を提供してくれた企業、工事関係者の皆様、建設業協会鶴岡支部役員、部員の皆様に感謝致します。



令和5年度

研修視察事業報告



技術研修委員会
副委員長 浅賀 大輝

令和5年度、建設業協会青年部の研修視察として大阪・兵庫へ行ってきました。

大阪市西区にある大阪木材仲買協同組合は竹中工務店による設計・施工により平成25年に竣工され国内外で数多くの賞を受賞。当会館の建て替え計画にあたり「木をふんだんに使用した木の殿堂」として社会へアピールできる建築」が求められ、これに対し主材料として3層式の耐火集成材（燃エンウッド）を採用することで生の木材をふんだんに使用し、「コンクリートと鉄の街」を「木の森」に変えるビルディングモデルを追求した建物であるとのこと。内部のいたるところに木材の温か味が感じられるものでありました。

また世界遺産である姫路城では400年以上の歴史を肌で感じ「白鷺城」の愛称で親しまれる優美な姿を間近で見る事ができました。白漆喰総

塗籠造の城壁や5重6階地下1階の大天守と東、西、乾の小天守が渡櫓で連結された連立式天守の壮大さは想像を遥かに超えたものでありました。

その他神戸港でのナイトクルーズや淡路島アニメパーク「ニジゲンノモリ」を廻り思い出に残る充実した研修視察となりました。

建設業協会親会をはじめとする皆様方のご理解ご協力に対し心より感謝申し上げます。



令和5年度

会員勉強会事業報告



技術研修委員会
委員長 安藤 将士

令和6年2月27日、ホテルメトロポリタン山形において、山形県建設業協会青年部連絡協議会会員勉強会が行われ、当鶴岡支部からは6名が参加しました。

今回の会員勉強会の講師として燈株式会社 共同創業者・執行役員 AISaaS事業部長の石川斉彬氏を迎え、「地方建設業DXで日本に希望の燈を」と題して講演をしていただきました。

昨今の建設業にかかわる担い手不足問題や2024年問題等を踏まえ、地方建設業のDX化を推進するため同社を設立し、建設業に特化した「注文稟議」や「注文書送付」、「請求書処理」など経費精算の全てが1つのサービスで完結するデジタルビルダーや全社員にAIの秘書をつけるとい

うイメージの建設業ChatGPTなどのAIビジネスソリューションを活用することで問題解消に寄与できるとのことです。

当会勉強会は普段は中々拝聴することのできない稀有な機会です。青年部会員一同この学びと経験を活かして今後に活用して参ります。



令和5年度

就職支援講座

しごとセミナー事業報告



青年部
副部長 佐藤 義将

鶴岡市、公益財団法人庄内地域産業振興センター主催による「しごとセミナー」が高校2年生を対象として今年の3月5日・15日に開催されました。2回に渡る開催で鶴岡田川地区の高校5校より計100名の生徒達が参加してくれました。

この事業は、地元企業6業種（介護福祉、建設業、宿泊業、販売業、製造業）による仕事の講話を行い、地元企業に対する就職志向の向上につなげる事業でもあります。

建設業協会青年部からは、「建設のしごと」について講話してきました。現在、建設業は担い手不足が顕著であります。そんな建設業に少しでも興味をもってもらう為に建設業全体で取り組んでいる新4K（給与が良く・休暇が取れる・希望がある・カッコイイ）や建設DX（デジタルトランスフォーメーション）に関する取組について発



表してきました。少し専門的な事もありましたが、これからの建設業の変革を知る事で建設業への携わりやすさや魅力を伝えると共に、建設業はこの地域にとって欠かせない必要とされる仕事であるとアピールして来しました。

最後に今回の「しごとセミナー」を通じて、少しでも建設業に興味を持ってもらえるきっかけになり、これからの就職活動に繋がることを願っております。

令和5年度

総務交流委員会

事業報告



総務交流委員会
委員長 榎木 晴紀

本年度の総務交流委員会は、定時総会並びに歓送迎会、水辺で乾杯、酒田支部との交流会、Webページの更新、臨時総会、新年会と予定していた事業を滞りなく行うことができました。水辺で乾杯と酒田支部との交流会は4年ぶりにまともに行うことができて何よりだと思います。

定時総会においては予算及び事業内容について審議し、歓送迎会では4名の卒業部員と4名の新入部員を迎え、昨年に続き31社での活動となりました。人員不足が嘆かれる中、青年部活動にご協力いただいている各社に心より感謝申し上げます。

また臨時総会においては新年度組織図に加え、昨今の物価高に依りての会費の



増額や、昨年度引き上げた青年部活動の延長についても審議し、定年は45歳ですが5年間延長して活動することができるようになりました。今後とも時勢に順応していく必要性を感じています。

昨年に続き総務交流委員会として滞りなく活動を行えたのも、部長はじめ皆様方の御指導のおかげと心より感謝申し上げます。

令和5年度

卒業の言葉

青年部を卒業するにあたり



榎工藤建設

上林 広伸

平成20年4月の入会以来、多くの方々にご指導とご鞭撻をいただき、感謝申し上げます。どのような活動を行っている団体なのか全くわからないまま入会し、戸惑いと不安の中で活動に参加したことを覚えています。それから16年間、鶴岡支部青年部の歴代最長(?)となる在籍年数の中で、通常の業務では出会うことがない他社の技術者や経営者の方々と数多く知り合うことができ、仕事上のスキルアップはもちろん、自己成長にもつながることが出来たと感じています。

具体的な事業の中では、河川愛護活動、鶴岡公園ボランティア、高校生現場見学会などの準備に携わらせていただいた時に、地域の為、建設業存続の為になっているなど特に実感し、青年部の一員であることに誇りを持って活動することができました。

私はこれで卒業となりますが、長年にわたり数々の経験をさせていただいた一人として、担い手不足を解消するためにも、建設業の魅力と必要性を次世代に伝えていきたいと思っています。最後に、これまで支えてくださいました青年部の会員の皆様に深く感謝申し上げます。仕事やどこかでお会いした際には、ぜひ声をかけてください。長い間、本当にありがとうございました。

卒業の言葉



榎石庄建設

佐藤 吉史

平成26年度に青年部に入部し10年間活動させていただきましたこと、また様々な方々と出会い、貴重な経験をさせていただいたこと、心から感謝申し上げます。

入部当初は一体何の活動をするのだろうという活動への不安と初めて会話をする諸先輩方との交流が不安でしたが、やさしく接していただき楽しく参加させていただくことができました。

年々建設業の人口が減少している中で青年部の活動はとても重要なことだと思います。

公園ボランティア活動、河川愛護活動、高校生建設工事見学会等々、これからの社会を担う学生との交流もとても貴重な経験でしたし、学生という若い人たちから建設業に興味を持つてもらえる良い機会でもありますので、今後もこのような活動の発展を応援しています。

私自身もこの経験を活かし建設業の魅力や重要性等を幅広く伝えていき、少しでも建設業に貢献できればと思います。

青年部の皆さんとは今後どこかで顔を合わせる機会があると思いますが、気軽に声をかけていただければ幸いです。最後にありますが、部長をはじめ青年部の益々の発展と皆様のご活躍を期待しまして卒業の言葉といたします。

卒業にあたり



十和建設㈱

菅原 元

令和元年に入部して以来5年間、鶴岡支部青年部にお世話になりました。入部当初は、同業者の方々とはいえば交流がなかったため、戸惑いや不安の中で活動していたことを覚えています。しかし、いざ活動へ参加させていただくと諸先輩方に声をかけていただき、活動を通して楽しく参加させていただくことが出来ました。

青年部の様々な活動を通して、通常業務では得ることのできない貴重な経験をさせて頂きました。河川愛護活動やボランティア活動では部員の皆様と一緒に体を動かし色々な話をして盛り上がるなど、青年部活動を行っていただければ知り合うことができなかつた人々と交流を深めることができ、自分にとっては大きなプラスになりました。また高校生対象の就業促進事業・現場見学会なども、これからの建設業が発展していくために重要な事業であり、担い手の確保に向けた活動として、若い人たちに少しでも興味を持ってもらい、未来に繋げていけるように、青年部の力を結集していただき、建設業の魅力をお互いに発信していければと思います。

最後になりますが、この青年部で経験したことを無駄にすることなく、これからも携わる者として建設業界を微力ながら盛り上げていければと思います。

青年部のこれから益々のご発展と部員皆様方のご活躍を心より期待して卒業の挨拶とさせていただきます。

四年の活動に思いを馳せて



鶴岡建設㈱

渡部 修

私の入部は令和2年、ちょうどコロナウィルスが流行し始めた頃でした。例年通りとはいかず、模索しながらの活動で戸惑いがあつたのを憶えています。そもそも私は青年部の事をよく知らなかつたので、最初は得体のしれない組織に入れられてしまったという戸惑いや不安がありました。が、部員同士の仲が良く普段は馬鹿げた話をしていてもいざ何かをやるとなれば真剣に皆で協力し合う姿に、いつしか「青年部っていいなあ」と思うようになりました。

日頃から「この地域の建設業が良くなってほしい・盛り上がってほしい・興味を持ってもらいたい」そんな事を思っていた私には最適の場所だったんだと思います。自分としては、それぞれの事業や部員同士の交流にも積極的に参加出来たんじゃないかと思つていますが、微力ながらも貢献できていれば本望です。

これからはこの地域の建設業に携わる一人として、自分なりの役割を果たしていきたいと思つています。そして、青年部で築いた皆さんとの繋がりを積極的に活かしながら、今後の建築人生を歩んでいきたいと思つています。

最後になりますが、皆さんのこれらの活躍を陰ながら応援すると共に、子供たちに夢を与えられる建設業になる事を期待して、卒部の言葉と致します。四年間、大変お世話になりました。

令和6年度

入部の言葉

青年部入部の言葉



株式会社 伊藤 良紘

伊藤 良紘

今年度より山形県建設業協会鶴岡支部青年部に入部させていただきましたことになりました、株式会社石庄建設の伊藤良紘と申します。

青年部活動に關しまして不安に思っていたところ、先日開催されました定時総会に参加させていただき諸先輩方から活動内容などをお教えたいただきその一員として活動できることにとても喜びを感じました。

私は、建設業に従事して日も浅くまだまだ経験不足ではございますが、青年部で活動をさせていただくなかで、先輩部員の皆様と親睦を深めるとともに自身の成長へと繋げていきたいと思ひます。

また、青年部の活動につきまして、地域のボランティア活動をはじめ、地元高校生との交流活動などの活動を通して地域貢献や建設業界の魅力発信などに積極的に参加して参りたいと思ひます。

最後に、不慣れな点や至らぬ点など多々あるかと思ひますが、青年部の一員としての自覚を持ち、活動を通して地元建設業と地域の発展のために精一杯頑張つて参りますので、ご

指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

青年部入部の言葉



鶴岡建設株式会社 金内 雅和

金内 雅和

今年度より建設業協会青年部に入部させて頂くことになりました鶴岡建設株式会社の金内雅和と申します。宜しくお願ひ致します。

この度、ご縁があり青年部に入部することを大変嬉しく思ひ、今後の活動に希望を膨らませております。

先日の定例総会に参加させて頂き、様々な活動を行っていることを知り、青年部の活動は重要な役割を担っていると感じました。また、今後諸先輩方と活動を共に出来ることが楽しみです。

私は入社以来、土木工事に携わつて参りましたが、他社の方々との交流はそれほどありませんでしたが、これからは、青年部の活動を通して他社の方々と交流する機会も増えると思ひますので、親睦を深め、情報交換や様々な経験を積んで、自分自身のスキルアップが図れればと思ひます。

青年部の一員として、積極的に活動に参加し、建設業の発展や地域社

会に貢献していきたいと思ひますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ致します。

青年部入部にあたり



十和建設株式会社 齋藤 良

齋藤 良

今年度より建設業協会鶴岡支部青年部に入部させていただきましたこととなりました、十和建設株式会社の齋藤良と申します。

私は高校卒業以来25年ぐらいますが、建築工事の技術者として働いてきました。今までの仕事ではJ V工事以外では、他社の皆様と交流することも少なかったものですから、青年部の一員として皆様と一緒に働くことを楽しみにしております。

地域貢献委員会に配属となりました。過去のかわら版などを拝見しますと、河川愛護活動・鶴岡公園ボランティア・水土里ネットいなば自然体験学習等、素晴らしい活動をいっぱいされているなど感じました。私は今まで会社の中でも、ボランティア活動とは無縁でしたので少々不安もありますが、諸先輩方からご指導いただき、地元建設業の発展の為にがんばりたいと思ひます。

本当に何もわからず、ご迷惑をおかけすることもあるかと思ひますが、皆様どうぞよろしくお願い致します。





現場紹介

令和4年度
山形県立庄内中高一貫校(仮称)
高等学校校舎増築その他(建築)工事



鶴岡建設・マルゴ・
笠原建設工業
特定建設工事共同企業体

鶴岡建設(株)
現場代理人
渡部 修

本工事は、県立中学校と高校を併設した山形県内2校目、庄内地区では初となる併設型中高一貫教育校の高校を開校するにあたり、山形県が発注した工事です。既存の鶴岡南高校校舎(管理棟・中央棟・東棟・西棟)の内外装改修、体育館の外装改修、渡り廊下の解体、管理棟にS造4階建と中央棟屋上にS造平屋建を増築する工事で、延床面積は13,047.31㎡になります。工期は令和4年10月8日から令和6年2月29日で、令和6年4月に開校というタイトな工期でした。そんな状況の中、工事で留意した点をご紹介します。

①増築

〔鉄骨建方計画の検討〕

増築棟は中庭への建設だった為、既存校舎に四方が囲まれた施工し難い状況の中、特に鉄骨工事が工程に大きな影響を及ぼすと判断し、鉄骨建方計画を検討しました。

指定仮設では50tクレーンでの揚重のところ、当現



場の性質上、クレーンが設置できる位置からの揚重距離・荷重・施工高さを検討した結果、120tクレーンにする必要がありました。すぐに計画を変更した事で工程への影響をクリアしました。

②改修

〔床下地改修の検討〕

床長尺シート仕上の下地として床面積6,230㎡

の補修作業がありました。が、左官工の減少や施工時の気温、他工事繁忙期による影響を総合的に判断し、設計通りの薄塗り補修では日当たり施工面積が延びず、工程に影響が出ると考えました。

他の工法を検討した結果、薄塗り用セルフレベリング材を発見、監督員に提案して現場試験施工を実施し、表面仕上り・既存床との密着性・床仕上材への影響有無を確認の上、採用となりました。その結果、薄塗り補修の日当たり施工面積を半日での施工が可能となり、残りの半日は別の作業に充てることが出来ました。

今回の工事得た「事前に予測し対策する事・計画と違う事が起きた場合は切り替えを早くし、次の方法考える柔軟な姿勢」をこれからも持ち続けたいと思います。

最後に、致道館高校の工事に携わった事を誇りに思うと共に、工事にご協力いただいた全ての皆様に感謝いたします。

●発行日 令和6年7月25日 ●発行責任者 青年部長 土岐 正行／技術研修委員長 浅賀 大輝 ●住所 山形県鶴岡市余慶町1-1 TEL(0235)22,2364 FAX(0235)22,2289